

話 題

日本学術会議主催公開シンポジウム
「東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・
自然環境の復興・再生に向けて（第2回）
—日本学術会議の第二次提言を踏まえて—
について

佐藤秀一

実行委員会副委員長
東京海洋大学海洋科学系
SHUICHI SATOH

Tokyo University of Marine Science and Technology

標記のシンポジウムを平成26年11月21日に開催致しました。今回の「話題」ではその経緯と当日の講演内容について紹介します。

本シンポジウムは昨年に引き続き日本学術会議第二部食料科学委員会水産学分会から提案したものです。今回も水産学、海洋学関連の16学会が立ち上げた水産・海洋科学研究連絡協議会が共催となり、特に本年6月に行った日本学術会議食料科学委員会水産学分会の第二次提言に係るシンポジウムとして開催したものです。今回のシンポジウムでは昨年のシンポジウムの折に頂きました質問やアンケートに基づき、放射能の問題や防潮堤などの課題に関する講演、文部科学省が行っているマリンサイエンス拠点形成事業について、大学、研究機関及び学会から説明して頂きました。そして、学術会議からの第二次提言について、総合討論を行いました。

まず、今回も実行委員会を設けましたので、簡単に紹介させていただきます。その陣容は、日本学術会議から竹内俊郎氏、水海研連からは議長及び副議長をお願いしている4学会（日本水産学会・日本海洋学会・日本水産増殖学会・漁業経済学会）から佐野元彦氏、八木信行氏、森田貴己氏、佐藤秀一の計5名により構成しました。委員長を竹内俊郎氏が、副委員長を私が担当しました。日本学術会議は資金に乏しく、会場（日本学術会議講堂）を無料で使用させていただくほかには特に資金援助がありません。そこで、運営資金を得るために寄附を募ることにし、税制法の優遇措置が得られる公益社団法人の日本水産学会を窓口として広く働きかけることとしました。お陰様で、10団体（公財）海外漁業協力財団、(社)海洋水産システム協会、鹿児島まぐろ同友会、(社)全国いか釣り漁業協会、(公社)全国漁港漁場協会、全国さんま棒受網漁業協同組合、(社)全国水産技術者協会、(社)大日本水産会、日本農学アカデミー、マルハニチロ(株)からご寄附をいただき、無事運営できることとなりました。この



写真1 開会の挨拶



写真2 総合討論の様子

場をお借りし、各団体と寄付の窓口をご提供いただいた日本水産学会に厚く謝意を表します。

当日は表1に示す議事次第で、予定通り行われました。渡部終五日本学術会議会員の挨拶のあと、秋山敏男氏から各省庁における震災関連の取り組み状況が説明されました。

この後、津田 敦氏の座長で、大学、研究機関から、原発事故と放射能に関連する3課題、ならびに防潮堤を含む水産基盤の復旧についての1課題が報告されました。次に、渡部終五氏と青木一郎氏の座長で、東北マリンサイエンス拠点形成事業に関連する9課題が発表されるとともに、これまで各機関や学会を中心として活動してきた内容及び今後の課題などについての講演も行われました。

各発表ののち、八木信行氏の座長の下で、日本学術会

表1 公開シンポジウム

「東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて（第2回）
—日本学術会議の第二次提言を踏まえて—」

1. 主 催：日本学術会議 食料科学委員会水産学分科会
2. 共 催：水産・海洋科学研究連絡協議会，日本水産学会，東京海洋大学，北里大学海洋生命科学部
3. 後 援：日本農学アカデミー，大日本水産会，全国漁業協同組合連合会（予定），水産海洋学会，日本付着生物学会，日本魚病学会，国際漁業学会，日本ベントス学会，日本魚類学会，地域漁業学会，日仏海洋学会，日本海洋学会，日本水産増殖学会，マリノバイオテクノロジー学会，日本水産工学会，日本プランクトン学会，漁業経済学会，日本藻類学会
4. 日 時：平成26年11月21日（金）10：00-17：20
5. 場 所：日本学術会議講堂（港区六本木）
6. 開催趣旨：平成23年3月11日に東北太平洋沖で発生した大地震は巨大津波の襲来をもたらし，沿岸地域の漁業および水産関連の職業に携わっていた住民の生活を一瞬のうちに破壊し，地域社会を崩壊させてしまった。さらに，巨大津波の直撃を受けて漏洩した東京電力福島第一原子力発電所の放射能は，海洋汚染をもたらし，漁業および水産関連産業に深刻な影響を未だ与えている。水産学，海洋学関連の16学会が立ち上げた水産・海洋科学研究連絡協議会では昨年標記のタイトルでシンポジウムを共催し，各学会の取り組みについて述べるとともに，総合討論において様々なご意見をいただいた。今回は，各学会のみならず大学等の取り組みを紹介するとともに，日本学術会議が平成26年6月10日に行った第二次提言の内容についてパネルディスカッションし，東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けての方向性と具体的方法について取りまとめる。
7. 次 第：
 - 10：00-10：10 開会の挨拶 渡部終五（日本学術会議第二部会員，北里大学海洋生命科学部教授）
 - 10：10-10：25 秋山敏男（農林水産・食品産業技術振興協会，専門PO）
「各省庁における震災関連の取り組み状況」
 - 座 長：津田 敦（東京大学大気海洋研究所教授）
 - 10：25-10：50 石丸 隆（東京海洋大学海洋観測支援センター特任教授）
「福島沖の海洋生態系における放射能汚染の推移と現状」
 - 10：50-11：15 森田貴己（水産総合研究センター中央水産研究所）
「東電福島第一原子力発電所事故による水産物の放射能汚染の状況」
 - 11：15-11：40 濱田武士（東京海洋大学大学院海洋科学系准教授）
「原発災害と水産復興」
 - 11：40-12：05 影山智将（漁港漁場漁村総合研究所理事長）
「水産基盤（含む防潮堤）復旧の現状と課題」
 - 12：05-13：10 休憩（昼食）
 - 座 長：渡部終五（前 述）
 - 13：10-13：25 清浦 隆（文部科学省研究開発局海洋地球課長）
「東北マリンサイエンス拠点形成事業の概要」
 - 13：25-13：35 木島明博（東北大学大学院農学研究科教授）
「東北マリンサイエンス拠点形成事業（海洋生態系の調査）の研究概要」
 - 13：35-13：55 木暮一啓（東京大学大気海洋研究所教授）
「海洋生態系調査成果—1 震災と海洋生態系統合モデル」
 - 13：55-14：15 北里 洋（日本学術会議連携会員，海洋研究開発機構プロジェクト長）
「海洋生態系調査成果—2 震災とハビタットマッピングモデル」
 - 14：15-14：35 原 素之（東北大学マリンサイエンス復興支援室長 教授）
「海洋生態系調査成果—3 震災と漁業復興モデル」
 - 14：35-14：50 園田 朗（海洋研究開発機構データマネジメントユニットリーダー）
「海洋生態系調査成果—4 TEAMS データ共有・公開機能の構築」
 - 14：50-15：00 休憩
 - 座 長：青木一郎（日本学術会議連携会員，東京大学名誉教授）
 - 15：00-15：25 小川廣男（東京海洋大学大学院海洋科学系教授）
「SANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業の概要」
 - 15：25-15：50 秋山秀樹（水産総合研究センター本部研究推進部長）
「水産総合研究センターの取り組み」
 - 15：50-16：15 田中次郎（東京海洋大学大学院海洋科学系教授）・坂西芳彦（日本海区水産研究所グループ長）・青木優和（東北大学大学院農学研究科准教授）・倉島 彰（三重大学生物資源学部助教）
「藻場のモニタリング—東北から北関東の太平洋沿岸—」
 - 16：20-17：10 総合討論
（司会）八木信行（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）
「東日本大震災から新時代の水産業の復興へ 第二次提言について」
（コメンテーター） ・長谷成人（農林水産省水産庁増殖推進部長）
・赤間廣志（宮城海区漁業調整委員）
 - 17：10-17：20 閉会の挨拶 帰山雅秀（日本学術会議連携会員，北海道大学国際本部特任教授）
8. コーディネーター
渡部終五（日本学術会議第二部会員，水産学分科会委員長，北里大学海洋生命科学部教授）
竹内俊郎（日本学術会議連携会員，東京海洋大学海洋科学系教授）

議からの第二次提言について総合討論を行いました。また、総合討論にはコメンテーターとして長谷成人氏（水産庁）と赤間廣志氏（宮城海区漁業調整委員）に参加して頂き、震災からの復興・再生に向けての方向性と具体的方法などを討論しました。

最後に帰山雅秀日本学会会議連携会員より閉会の挨拶があり、無事終了しました。当日の参加者数は140名余でした。

本シンポジウム実行委員会としては、今後も水産学分科会や水海研連での議論を活発化し、東日本大震災の惨状を風化させないよう取り組んでいく所存であります。会員各位におかれましても、種々のシンポジウム等に参加して頂くとともに、ご意見を各学会に発信していただければ幸いです。

終わりに、本シンポジウムの参加者並びに本事業にかかわっていただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。